

「災害時における各曹青会と全曹青との  
協力・連携についてのガイドライン」

全国曹洞宗青年会  
第17期ボランティア委員会  
平成20年11月7日発行

# 「災害時における各曹青会と全曹青との 協力・連携についてのガイドライン」作成に向けて

## はじめに

近年、各地で発生した自然災害に際しては、宗門寺院はもとより人的・建物などの被害が甚大であり、また被災地住民の生活困難が生じております。宗門および曹青に対しても、より迅速かつ円滑な災害対応が求められています。

また各被災地では曹青会員によるボランティア活動が一定の評価をいただき、今後も災害支援活動においては大きな期待を担っていると同時に、多くの課題や反省も見受けられました。

いつどこで起こるか分からない災害に対して、自分たちが“被災地”の側と成りうる状況を想定し、各曹青会と全曹青が意識の共有を図り、防災をきっかけとして日頃から地域での「顔の見える関係づくり」を進めていただくために、この「ガイドライン」作成を試みました。

災害に関わるということは、「諸行無常」の現実と向き合うことでもあります。

私たちの「いのち」や「くらし」が一瞬にして脅かされ、苦悩と困難の中であって人々がつながり、支え合い、そして力強くまた立ち上がる姿の一つひとつから、私たちは多くの教訓をいただきました。

また災害は、平時からの地域のあり方や人とのつながり、自然と人間の向き合い方、ひいては「生きるとは何か」を考えさせられる“学び”や“気づき”の場でもあります。そのことは、普段の寺院活動や青年会活動にも当然反映されるべきものと確信いたします。

「縁起」の中に生きる私たちは「菩薩行・同事行」の実践として、これからも災害との関わりを重要視し、より望ましいかたちでの災害支援のあり方を考えていくためにも、多くの方々よりご意見ご要望を賜りたいと存じます。

会員数や地域事情などの違う中で、全国一律のシステムを構築することは困難でありますし、この「ガイドライン」は何の強制・拘束を伴うものではありません。また各曹青会ごとに、災害対応のマニュアルや体制を考慮されているところも既におありかとは存じますが、私共は各曹青会の判断や裁量を尊重したうえで、この「ガイドライン」作成を通して災害時の協力関係を築いていきたいと考えております。

何卒ご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

合掌

第17期全曹青ボランティア委員会 一同 九拝

## 「災害時における各曹青会と全曹青との協力・連携についてのガイドライン」

- ※ 被災地内外との連携、ボランティア（以下、V）活動開始や受け入れについて考慮が必要と思われる事項を、過去の災害時の対応を参考に列記いたしました。
- 災害規模や地域事情など、種々の状況に応じて柔軟に活用してください。

### ◆災害発生時

#### 被災地区の曹青側と全曹青側との連絡調整

～誰が、誰と、どのタイミングで、どのように、どんな情報をやりとりするのか？～  
(別紙相関図参照)

#### ※留意点

- ・各曹青会内の役職者（事務局・理事・代議員など）内での緊急連絡網の整備を心がける。また災害発生直後は電話不通となることが多いため、メール（PC・携帯）での交信が主となりうる場合を想定し、メールアドレスの把握が望ましい。
- ・災害発生後は状況が随時変化するため、段階的に情報交換するよう努める。
- ・情報交換の対象者として被災地区の曹青会長から、キーパーソンとなる曹青会員（地理的条件や災害Vの経験などを考慮）を紹介してもらう必要もありうる。

#### 情報収集すべき事項（『般若』へのアップを前提に）

- ・当該地区の宗門関係者の安否確認
- ・被害状況（寺院関係、一般住民の建物倒壊など）
- ・当該地区の宗門組織の状況（「曹洞宗現地対策本部」設置の有無、宗務所との連携）
- ・ライフラインの状況（電気、ガス、水道、通信手段、道路アクセスなど）
- ・行政の災害対策本部や近隣社協での状況、「災害Vセンター」設置の有無
- ・V募集の必要性の有無やその規模
- ・地元マスコミの情報など

#### 関係機関（被災地内外）との連携・情報交換（別紙相関図参照）

- ・宗門関係（青年会レベル、宗務所・宗務庁レベル、寺族会、婦人会など）
- ・行政機関や社協など
- ・災害支援に関わる各団体、地域の諸団体

## ◆ボランティア活動開始時

### V本部立ち上げと初期の体制運営

- ・場所の選定
  - 二次災害の心配がなく、安全が確保されている
  - 活動地域から適度な距離
  - 交通事情や駐車スペースも考慮する
- ・施設の確保（例：寺院、公民館、集会所、関連業者の倉庫、プレハブなど）
- ・宿泊や食事はV各自で手配するのが原則なので、無理に準備しなくともよい。
- ・電源の確保（状況に応じて発電機を調達する）
- ・電話回線（ネット環境の整備も含む）の確保に努める（固定電話もしくは携帯）
- ・仮設トイレ、ガスコンロ、発電機などはリースで調達も可
- ・宗門の「現地対策本部」との兼ね合い、宿泊施設の有無等
- ・必要と思われる機材 …PC（プリンタ含む）、ファックス、コピー機、ホワイトボード、掲示板、机、暖房器具（冬季）、各種事務用品、工具類等

### 活動資金・物資の調達

- ・初動時の活動資金は、全曹青からの支援を協議する。
- ・活動長期化が見込まれる場合は、各曹青会からの「活動支援金」受け入れ窓口を設置し、活用するのが望ましい。
- ・支援物資は、被災地の状況（保管場所、タイミング、分配手段など）を十分に考慮のうえ、情報の提供を心がける。場合により「物資の提供はお断りしております」との情報発信も必要。

### 関係機関との連絡・情報発信

- ・当該地区の宗務所、地域の災害Vセンターとの情報交換や連携を緊密に行う。
- ・地域の各種団体（自治会、婦人会、老人クラブなど）との連携も視野に入れる。
- ・インターネットの活用も含め、活動状況の情報発信に努める。  
（V参加の意識促進と、今後の活動参加者への参考情報として）

### ボランティアニーズの把握と支援メニュー構築

- ・家屋の片付け、瓦礫の撤去、泥よせ（水害の場合）、「行茶活動」、炊き出し等、発災からの時期や状況を見極め判断する。

### ボランティア受け入れ

- ・活動中の安全確保には十分に留意する。また不測の事態に備えて現地対策本部を通してボランティア保険にご加入いただく。
- ・V参加受付表（個人・団体用）を用意し、活動者の人数・期間・特性などを把握する。

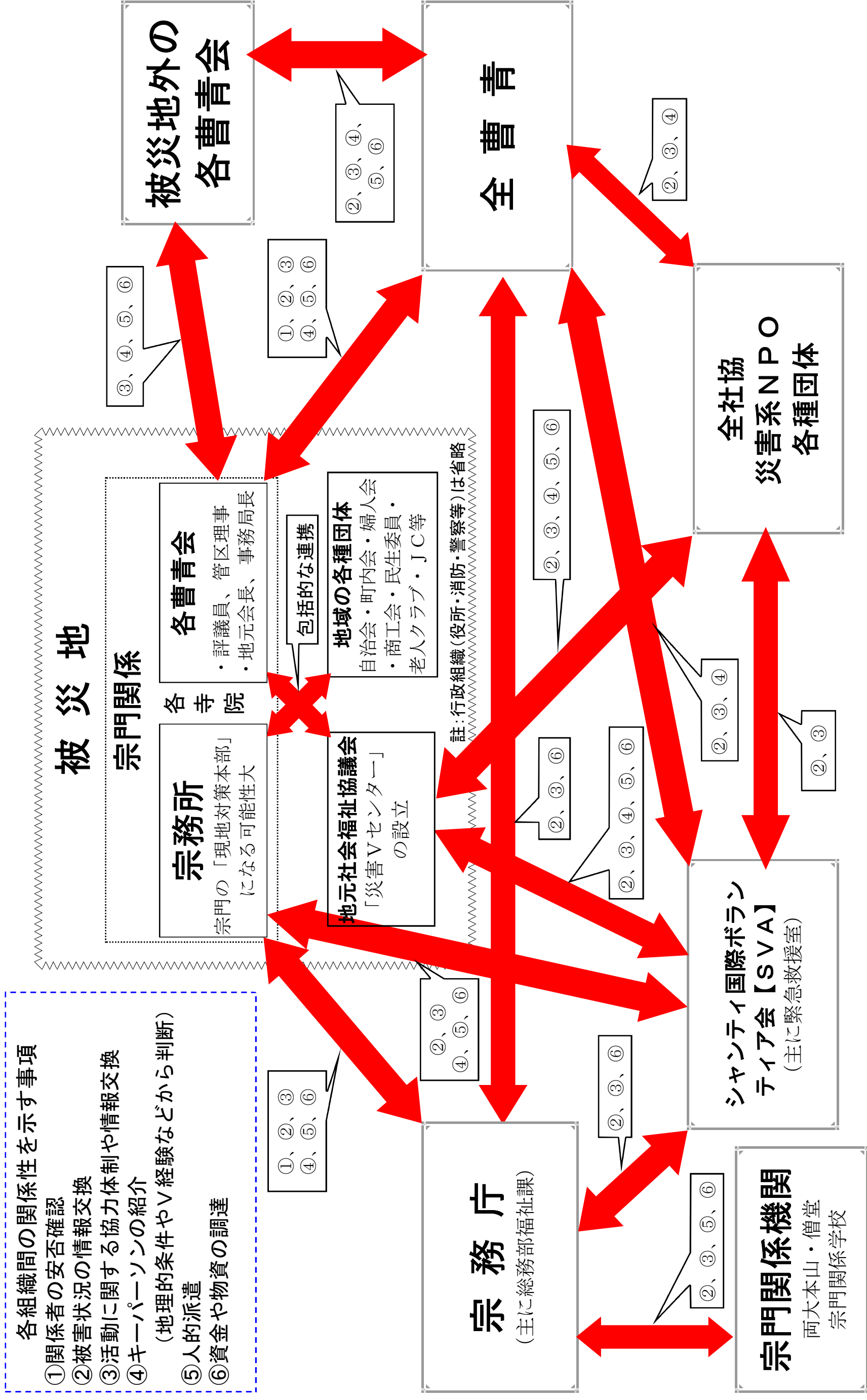
### 役割分担

- ・本部事務
  - V受付、マッチング（ボランティア参加者と活動内容の調整）、渉外（関係機関との連絡調整、情報発信）、会計、物資管理など
- ・現場コーディネーター担当
  - 道案内、活動時の状況判断、避難所や活動地区の責任者との交渉など

### 上記活動を円滑にするための各種フォーマットの準備

- ・V参加受付表（個人・団体用）、V受入ローテーション表、V依頼票および活動指示書等

# 災害発生時からボランティア活動開始に至る相関図イメージ



※上記は過去の災害を参考に想定されるものです。状況により異なることはあらかじめご了承下さい。

## あしがき

私たちは如何に災害と向き合い、支援活動を行うかを常々協議していかなければならないほど、全国各地で災害が頻発しております。

被災された地域の方々の一刻も早い復興の為には、迅速な支援活動を行うことが肝要です。そして迅速な活動を行うには、青年宗侶一人ひとりが意識を共有し、互いに連携して活動に臨むことが、被災された方々に寄り添う復興支援につながると私たちは考えています。

平成19年7月16日に発生いたしました新潟県中越沖地震の復興支援活動の際には、必要な備品やスケジュール、現地入りされる方々のローテーション等のプログラムを模索しながらの活動となりました。そのため、現地にて迅速な活動を最初から行うには至らなかった点を課題として挙げ、復興支援活動に参加する方々にとって、そして災害の現場となりうるかもしれない地区にとりましても復興支援活動をイメージできるものであり、先の災害復興支援活動に用いられたスキルを繋げるものが必須となるであろうと考え、この「災害時における各曹青会と全曹青の協力・連携についてのガイドライン」を作成いたしました。

このガイドラインを添付資料とともに多くの皆様にご理解いただき、活用していただければ幸いです。

私たち青年宗侶のボランティア活動が、より一層広く和合し大きな力となることを切に願っております。

合掌

平成20年11月吉日

第17期全国曹洞宗青年会ボランティア委員会

委員長 瀬田啓道 九拝